Reccomend
Movie 002

ハーヴェイ・ミルクは同性のパートナーと共にサンフランシスコに移り住む。二人は小さなカメラ店を営み、そこはたちまち LGBT の拠り所となる。彼らを快く思わない保守派と対抗するため、仲間を集め独自の商工会を立ち上げる。自らゲイである事を公表し、1970 年台にアメリカ初の LGBT の政治家として公民権獲得や地位向上のため戦ったハーヴェイ・ミルクの生き様を描いたドラマである。ミルクは LGBT のみならず黒人やアジア人、高齢者や労働者など社会的弱者のために活動し支持者を増やして行くが、保守的な人達には受け入れ難いことであり衝撃的なラストへと繋がっていく。デットマン・ウォーキングでは死刑と向き合う殺人鬼を。アイ・アム・サムでは、知的障がいがありながらも父親として子育てをする主人公を演じた演技派俳優ショーン・ペンの熱演も見所の秀作。

執筆者：CEO 神谷 牧人

Event information

11.26
（土）17:00〜20:30

開催方法：Zoom によるオンラインセミナー 参加費無料 !!

[経験者が語る私たちに必要なこと〜ADHD のための働き続けるポイント〜] 発達障がいがあっても働き続けるためのポイントを、AD/HD 当事者でもあり、今でも上がったり凹んだりを繰り返しながらも、頑張って働いている 3 名のパネリストが語り尽くします。過去のぶっ飛び経験談や対応策等を赤裸々に告白！

詳しくは
イベント
サイトへ

障害スポーツで頂点を目指す！―多様な参加ができるラグビーについてのお話―

まだまだ知られていないパラスポーツの障害者ラグビーから、障害に合わせた競技とその楽しさをご紹介。

障害者ラグビーは実は障害の種別によって、3 つの競技に分かれているって知っていますか？車イスバスケや陸上競技は有名ですが、本日はラグビー競技についてのおはなしです。障害者ラグビーは身体障害がある方を中心とする車イスラグビー、視覚障害の方を中心とするブラインドラグビー、聴覚障がいの方を中心としたデフラグビーの 3 つに分かれています。パラリンピックの正式種目でもある車イスラグビーは車イスに乗った方々が 4 対 4 で戦うラグビー競技で、車イスに乗っているとは思えないほど俊敏な機動力だけでなく、激しい衝突を伴いながらのプレーは圧巻です。一方、ブラインドラグビーでは 7 対 7 の競技となっておりタックルは禁止されているため、タッチをして相手のプレーを阻止します。監督やコーチ、仲間の声掛けによってトライを狙うチームプレーは見所です。最後にデフラグビーですが、ルールは一般的なものと同様ですが、プレーヤーは補聴器など付けずにプレーします。審判は笛の代わりにフラッグやタオルを使用したり、スクラムの際には、手話でコミュニケーションをとりながら、トライを目指します。ちなみに、日本聴覚障害者ラグビーフットボール連盟のロゴは桜の絵の中にラグビーボールを持ったタツノオトシゴが描かれており、とても可愛いところが魅力的です。いかがでしたでしょうか。YouTube などでも配信しているので、是非ご覧ください。

執筆者：ホイスコーレ沖縄 野口 萌香

Associa Staff

屋良 朝秀
所属：カフェアソシア沖縄

入社 10 年目。社会大学（現ホイスコーレ）とソーシャルトレーニングを異動しながら多くの皆様に関わりサポートをしてきました…とはいえ「抜け漏れ忘れの鬼」と怖れられている私ですから、サポートする以上に多くの皆様のサポートを受けながらどうにかやってます。みなさんいつも助けてくれて本当にありがとうございます（涙）趣味は映画鑑賞と料理と旅行。数年前ヨガ修行のためインドを訪れインストラクターの資格を取得しました。そのとき「Hariram= ハリラーム（" Full of joy" 喜びいっぱい)」というヨガネームをいただきました。だから、そういうことです。私を含め誰もが「安心して喜びをいっぱい感じられる社会」をつくる方法を日々模索しています。

Associa
local network design

発行元：株式会社アソシア
法人本部：沖縄県中頭郡北谷町北前 1-10-8
TEL：098-926-5175　FAX：098-926-5176
MAIL：info@associa-lnd.co.jp
HP：https://associa-lnd.co.jp/

インスタグラムで情報配信中
ジョブ川西　ホイスコーレ神戸

Change welfare in Japan

ASSOCIA JOURNAL

TAKE FREE

November 2022

VOL.02

大学休学者や通学が困難な大学生を対象とした復学特化型の生活訓練をスタート

2022 年 8 月より新しい視点の生活訓練がスタート！ 大学生活やその先の「未来」を応援したい。

アソシアホイスコーレ神戸では、大学中退者及び通学困難者に向けてさまざまなカリキュラムを通して自己理解を深めながら、復学に向けて支援することを目的に福祉サービスを提供しています。

モラトリアムと呼ばれるこの時期には、自身のことについて悩んだり、将来の進路に向けて考える事が多くあります。精神疾患や発達障害を抱える方は、ただでさえ悩みの多い多感な時期に自身の生き方や特性ゆえの困難さに直面し、社会への一歩や人との関わりに不安を感じる事が多くあります。そのため、今まで様々な場面で上手くいかないと思う事があり、その悩みを 1 人で抱えている方も少なくありません。

私たちは、自己理解が深まることで自分らしさを発揮できる力に繋がると考えています。自分を知るということは「本来の自分の性格を知る」「自身の特性を知る」「ストレスを抱えた時の反応を知る」「モチベーションを保つ方法を知る」「自身の強み・弱みを知る」等・・・

自分自身でも気づかなかった新たな自分に出会うということです。自分らしく、自分の持っている力を発揮するための自己理解をカリキュラムを通して促していきたいと考えています。

具体的には、自分を知る心理学（MBTI）やストレングスアセスメント、社会資源学、ハングル講座、ヨガ教室など経験豊富なスタッフの知識をみなさんにシェアしていきます。また、人生経験豊かな方をゲストにお招きし、その人の人生を覗かせてもらう社会人講話では、外国出身の方や地域で積極的に活動をしているユニークなゲストをカリキュラムにお呼びして、新しい生き方を知る機会や刺激的な大人との出会いの場を提供します。

そして、得た知識や新たに発掘した自分自身を、安心できる集団の中で発揮していく。苦手なことの対策だけではなく、自身の持つ強みを誰かのために役立てていく！そんな体験型のカリキュラムも用意しており、事業所の中だけでなく地域をフィールドに、人と繋がる楽しさやメリット、誰かの助けになる体験につながればと考えています。知識だけではなく体験や経験を伴った学びを共に重ねていくことで、これからの将来の一歩を踏み出せるようになってもらえたら・・・私たちスタッフもとても嬉しく思います。

執筆者：ホイスコーレ神戸 後藤 歩

Interview

就職し 1 年経った頃に上司とのやりとりがきっかけでメンタルの調子を崩し、退職。その後利用し始めた心療内科の方に「同年代の人たちが通っているよ」とアソシアを勧められました。アソシアはすごくお洒落で自分が思っていた事業所のイメージと全く違い、スタッフも優しく素敵なところだなと感じ、他の事業所は見学せずにここへ通いたいと決め、今に至ります。

前まではイベントへの参加、発言など、自発的に行動することを遠ざけて生きており、自分が好きなことを仕事にしようと考えていました。でも今は、苦手と決めつけずに自ら積極的に挑戦しようと決めました。そして人のためになるような仕事をしたいと思い、自分と同じようにしんどい思いをしている方の気持ちに寄り添えるよう、日々頑張っています。

協力：ジョブ川西 利用・S さん（28 歳）

アソシア社会大学 初代学長の想い～vol.1 若者にとって必要なプラットフォームとは

初代学長、諸留さんに設立の経緯や当時の状況をお聞きしたインタビュー記事を連載。※あまりの想いに本号だけでは入りきらず、連載することになりました。（全 3 回を予定）

お久しぶりです。早速ですが、諸留さんは現在何をされているんでしょうか。

- 諸留：トラウマに特化した個人セッションやイノチグラスという「発達する眼鏡」作り、人材育成寄りのファシリテーションみたいなことやってます。

直接援助より、支援者育成って感じですね。諸留さんはアソシア社会大学（現アソシアホイスコーレ沖縄）の初代学長ですが、設立の経緯などを教えてください。

- 諸留：自分がアソシアに join したのは今から 10 年前ぐらいだったと思うけど、当時は就労移行に 18 歳～20 歳の若者がたくさん紹介されてきて、ちょっとまってこの子たちどうすんのみたいな感じでした。要は本人も今までずっとひきこもって学校もずっと行かなくて社会体験が乏しい中で、そもそも自分が何をやりたいか分かんないっていう子達でしょ？ もっというと、「今日の T シャツカッコいいね」「このパーカーどうしたの？」って聞くと「お母さんが買ってきました」と言う子達が多くて。自分の洋服やパーカーを選べる。その先にやりたいこととか仕事とかがあるような気がしたんです。そういった体験が欠如してるよねってことで、神谷さんとお互い 20 歳ぐらいのとき何してた？って話して、神谷さんはバックパックで旅、自分はアメリカに洋服を買い付けに行ったりしていて、彼らにもそういう体験が必要なんじゃないかって思ったんです。今思えば先駆的だと思うんだけど、プラットフォームを作ってたんだと思う。仲間と出会う場所、何をやりたいかを模索する時間という、仲間、時間、場所っていうモラトリアム期に安心して過ごせるプラットフォームを作ってたんだよね。当時は。

なるほど。支援っていうより同世代と同じ体験・経験を、社会大学できるよということを目指したんですね。

- 諸留：本来であればやりたかったことや獲得したかったことが欠如しているわけだから、２年間の中で体験することが大事だと思った。だから、カリキュラムの半分を屋外とかでもやっていて、遊びが中心だった。というのが最初の 1 、2 年目。3 年目に差し掛かった時に、反転したんですよ。最初は自分たちのこれが必要なんじゃないかっていうものを提供していたけど、うまくいかないって時に、それを反転させようと思って。そもそもここにきている子たちは何がしたいのかということを聞いて、それをプログラムに落とし込んで、子どもたちのやりたいことをやったら主体性がどんどん出てきたって感じ。

Column

20 代男性の 4 割がデートをしたことがない…若者の恋愛離れの実態を支援の現場から考察します。

巷のニュースで「20 代男性の 4 割がデートをしたことがない、若者の恋愛離れが深刻」という記事を目にしたことがあります。私はそのニュースに対して懐疑的です。なぜなら、私の担当する事業においてはそうではないからです。

私の担当している「若年者キャリア形成支援モデル事業」という事業では、困難な状態にある若者を支援しており、大半が 10～20 代の不登校やひきこもりの方々です。彼らはプログラムに参加し、同世代との交流や体験を通して自身の将来について考えますが、その過程において高確率で恋心が芽生えます。もちろん、成就しないこともあります。それは、スポーツに勝ち負けがあるように恋愛においても成就があれば頓挫もあります。それは致し方ないでしょう。しかし、デートの経験数でいえば「20 代男性の 4 割は」という話かもしれませんが、それと恋愛離れは論点がずれているのではないでしょうか。恋愛離れというのであれば、「恋心を抱いた経験数」も観測が必要だと思われます。

送迎中、男児が先に下車し女児だけになった際、私は疑心暗鬼なることもあります。そう、彼女らは男児が下車すると、つけていたイヤホンを外し「本日の男児」について熱く議論を交わすのです。こうなると、女性側の受容数も観測が必要になってくるのではないでしょうか。やはり、観測方法自体の見直しが必要だと思います。

執筆者：GM 津嘉山 拡大